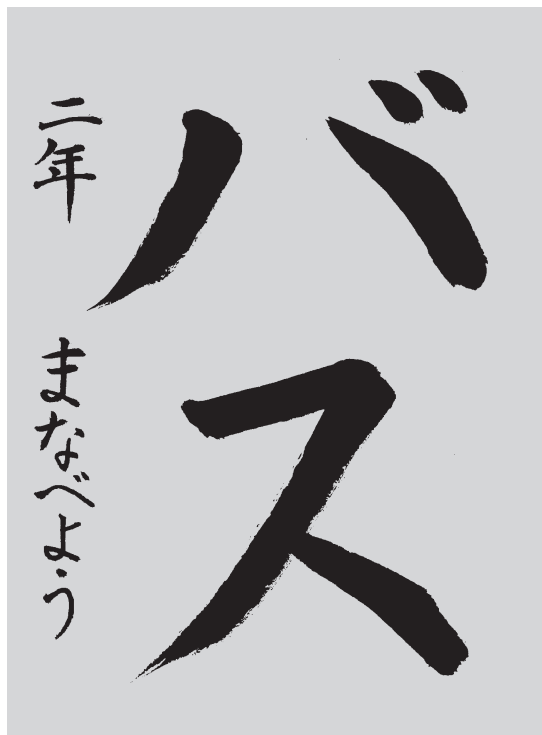


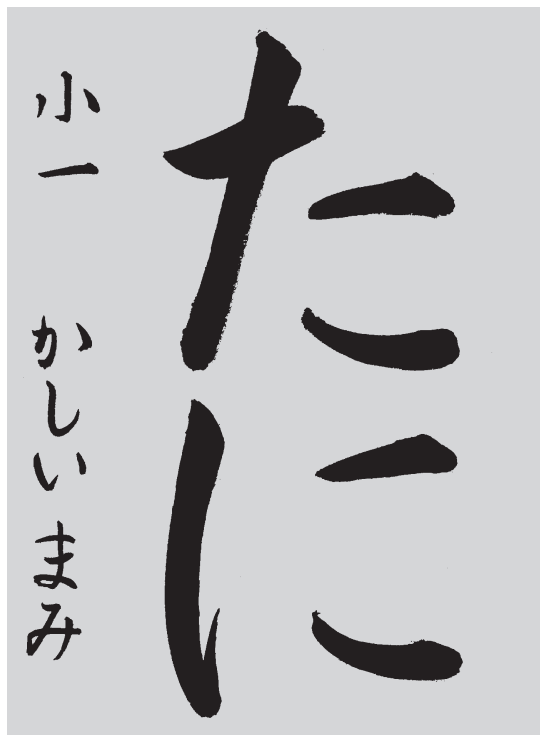
〔8月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。
(幼・小1の方は、学年を書かなくてもよい。)

小学2年参考手本

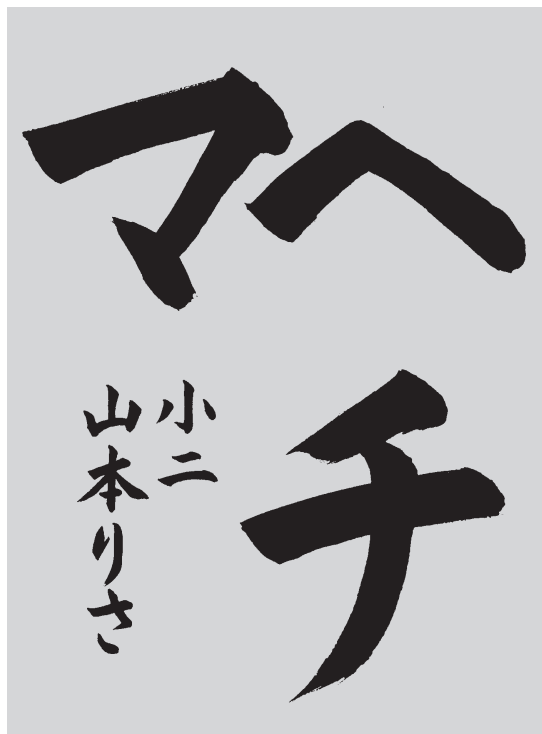


吹田 紅扇 先生

幼・小学1年参考手本



下谷 洋子 先生



佐藤 菜扇 先生



東原 扇桜 先生

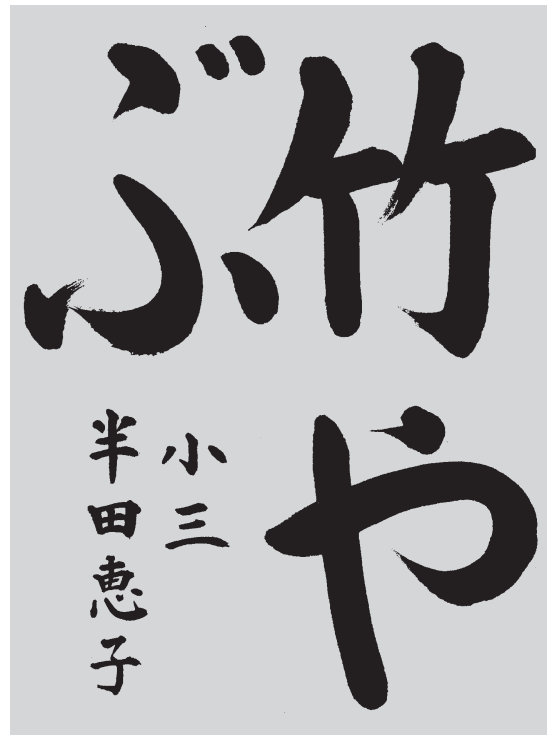
〔8月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

小学4年参考手本

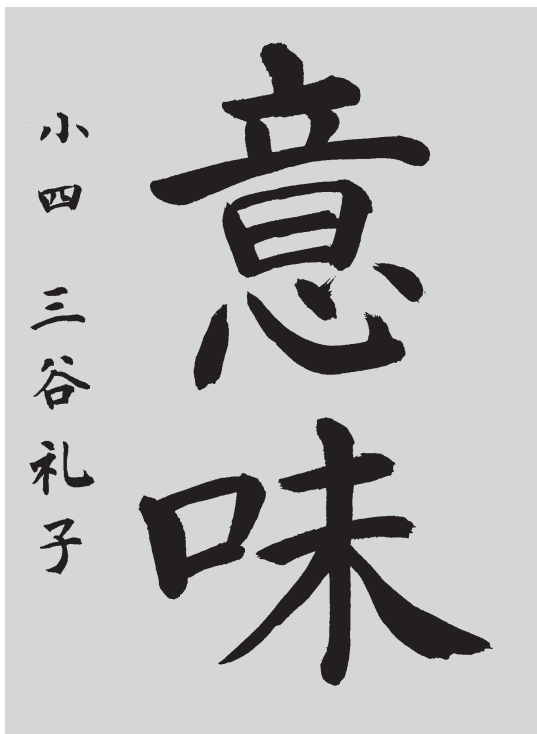


広瀬舟雲先生

小学3年参考手本



半田藤扇先生



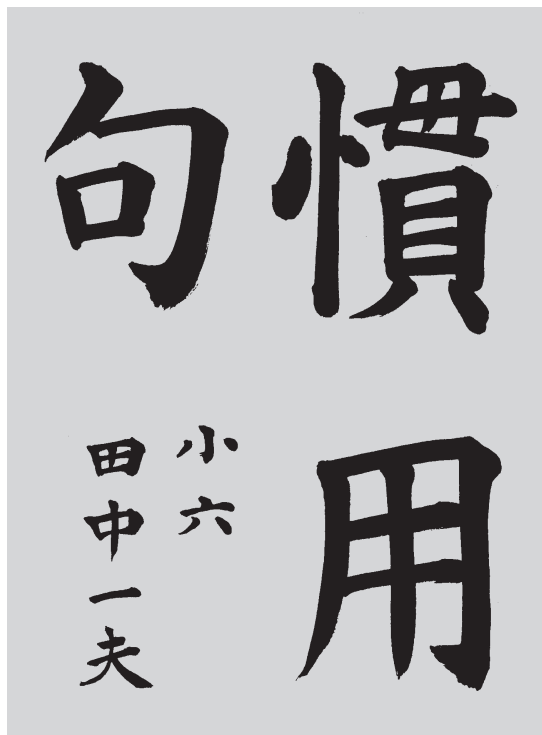
恩地春洋先生



滝春芳先生

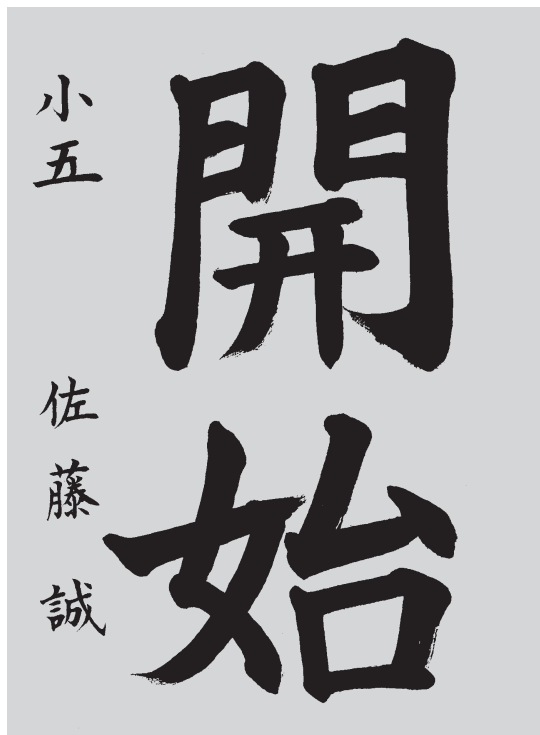
〔8月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

小学6年参考手本



辻元大雲先生

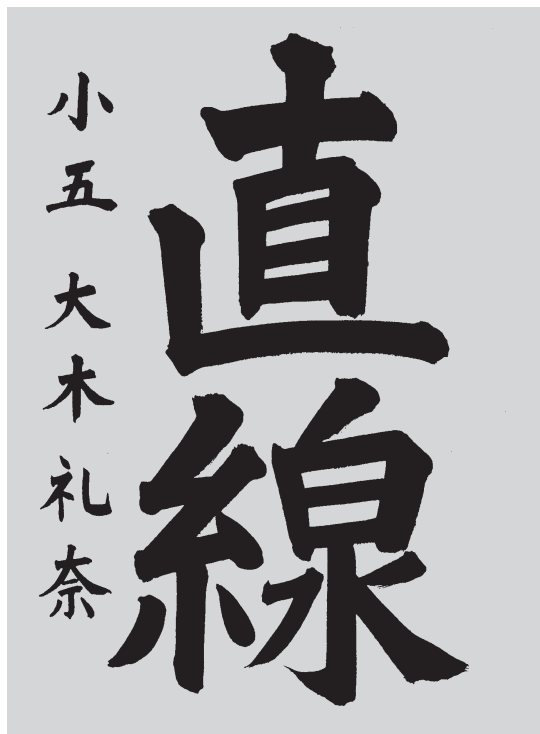
小学5年参考手本



坂本素雪先生



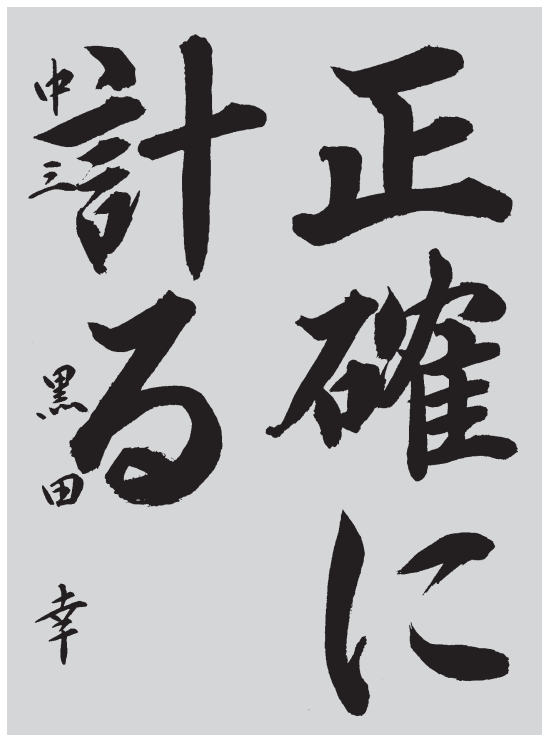
千葉蒼玄先生



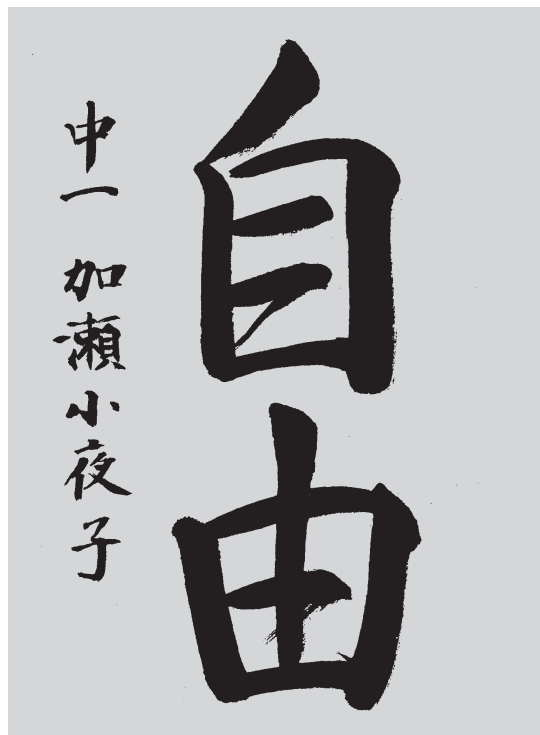
種谷萬城先生

〔8月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

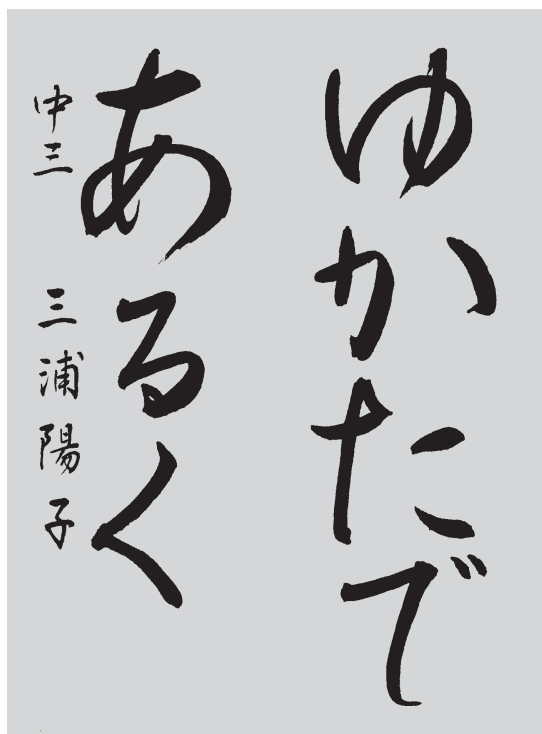
中学全学年参考手本（中学生は、どの課題を書いてもかまいません。）



西林 乘宣 先生



加瀬 澄春 先生



石井 明子 先生



大野 祥雲 先生

〔8月10日締切課題〕

幼・小学 1 年

硬筆参考手本

解説 辻元大雲先生

〔8月10日締切課題〕 用紙は本連盟指定のものか、もしくは指定の用紙をコピーして使用してください。
 ※8月10日締切用の「段級が印字されたバーコード出品券」は、9月号の本と同送されますので、その券を貼って出品してください。（毛筆も同じ）

◎各学年に「学習のめあて」をつけました。

「なにをれんしゅうするか」をはっきりして一生けんめい書きましょう。

◎書写用具は、えんぴつ(HB又はBが望ましい)、フェルトペン、ボールペン、その他学年に応じたものを使用してよろしい。

◎学年は漢数字(一、二、三……)、級は算用数字(10、9、8……)、段は漢数字(一、二、三、四)と記入。

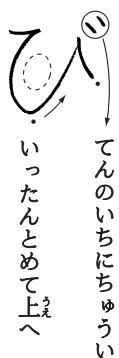
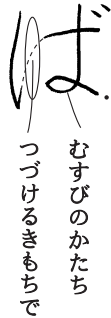
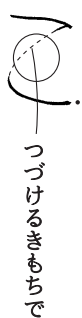
◎作品に、学年と自分の「氏」「名」を本人が書く。

◎幼・小一の方は学年を書かなくてもよい。

◎支部・支局名は、本人が書けない場合は、ゴム印でもよい。

◎出品券は清書の右下にはってください。毛筆、硬筆の貼り間違いにご注意ください。

支部名					
	び				
だん・きゅう	ま	と			
	し	び			
かくねん	た	ば			
一	。	こ			
なまえ		を			
		と			
	あきやまなおき				



『とびばい』
 「だくてん」のいちにちゅういしてかきましよう。

〔8月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

小学 3 年

小学 2 年

支 部 名				
		で		
		話	姉	
段・級		し	が	
		て	や	
学 年		く	さ	
	三	れ	し	
名 前		ま	い	
	鎌	ま	調	
	田	し	子	
	菜	た		
	穂	。		

支 部 名				
		た		
		く	夏	
段・級		さ	休	
		ん	み	
学 年		読	に	
	二	み	は	
名 前		た		
	阿	い		
	久	。	本	
	津		を	
	奈			
	央			

「姉」
漢字の組み立てに気をつけて、字形を整えましょう。

「話」
よこが出る
下が出る

「調」
「へん」と「つくり」の組み立て方に注意

「姉」
女(おんなへん)
くひつじゅん
く女女

「夏休み」
「夏」の字形をただしくかきましょう。
はらいの方向にちゅうい

「読」
よこが出る
下が出る
まがり

「休」
「つくり」大
「へん」小

「夏」
よこ画の間を同じに

〔8月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

小学5年

小学4年

支 部 名	ら	を	
	う	、	案
段・級	よ	直	内
	う	ち	板
学 年	お	に	の
五	願	移	前
名 前	い	動	の
	し	し	自
	た	て	転
	。	も	車

支 部 名	記	い	
	事	る	家
段・級	の	新	の
	内	聞	人
学 年	容	を	が
四	を	持	毎
名 前	を	ち	日
	調	よ	読
	べ	り	ん
	た	。	で

四つの左はらいの方向に注意

最後の画の長さや方向が大抵

つくりの「力」を下に

「女」をへん平に

長く

「自転車」
画数の多い漢字を整えて書きましょう。

たて、よこの分間に注意

はね
「筆順」
一 戸 門 門 間 間

接し方に注意
とめ

長く

「筆順」
一 仁 女 毎 毎

「新聞」
筆順に注意して、字形を整えましょう。

〔8月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

中 学 生

小 学 6 年

支部名	平成八年に、広島 の原爆ドーム が、ユネスコの 世界遺産への仲 間 入りを果たしま した。
段・級	
学 年	
名 前	
上村紀子	

支部名	どんな立派な演 説で も、人の心に届 かなけ れば意味がない。
段・級	
学 年	
名 前	
金子芽生	

『演説』

「へん」と「つくり」の組み立て方に
 気をつけて書きましょう。

派

入る方向に注意
 接し方に注意

演

〈筆順〉
 汨汨 汨汨 演

説

曲がり
 「口」をへん平に

『世界遺産』

漢字、ひらがな、カタカナをつりあい
 よく書きましょう。

世界遺産への仲間

〈簡単な行書〉

世

中心に気をつけて
 気持ちをつづけて
 書く

界

4・5画をつづける
 止める
 (・印)「はらい」を

遺

10・11画をつづける
 終画(15画)の
 はらいを止める

産

5・6画の接し方
 全体に気持ちを
 続ける



3年	竹	チク たけ	ノ	ム	ケ	竹			
4年	意	イ	イ	立	音	意	意		
	味	ミ あじ あじ・わう	口	𠂔	𠂔	味			
5年	開	カイ ひら・く ひら・ける あ・く あ・ける	丨	冂	冂	門	門	門	開
	線	セン	纟	糸	紉	紉	線	線	
6年	慣	カン な・れる な・らす	ハ	忄	忄	忄	忄	忄	慣
	句	ク	ノ	勺	句				
	思	シ おも・う	口	田	田	思	思		
	考	コウ かんが・える	土	耂	耂	考			
中学	野	ヤ の	日	甲	里	野	野	野	
	球	キュウ たま	一	冫	王	玊	玊	球	球
	確	カク たし・か たし・かめる	石	石	石	石	石	確	

行書を学ぼう (168)

(中学生の課題より、辻元大雲先生書)

正

正

大

大

野

野

確

確

会

会

球

球

行書と教科書体楷書の「ちがいを見つけましょう」

ひらがなの字源 (168)

く	る	あ	で	た	か	ゆ	
久 久 く く	留 る る る	安 安 あ あ	天 て て て	太 た た た	加 か か か	由 ゆ ゆ ゆ	源字 字形

※源字については、異字体から変遷したもの*印を付して()にその字体を記した。
 ※字形は古筆から抽出した。上段には源字に近い草仮名を配し、中・下段にはその変遷過程等を配した。

書写教育
 全国大学書写書道教育学会編より転載

漢字に親しもう

8月号中学生の毛筆課題「野球大会」から。カタカナで表記されている。スポーツ名はたくさんあります。今では、漢字で表記されているのは、野球、卓球、水球ぐらいではないでしょうか。そこで色々なスポーツ名を漢字で表現するとあっと驚く漢字に出合います。ちょっと小学校低学年の子供達には難しいかも知れませんが、一つでも二つでも覚えておくとお友達に自慢できますよ。

スポーツ和名小辞典

カタカタ名	和名
アイスホッケー	氷球(ひょうきゅう)
アメリカンフットボール	鎧球(がいきゅう)
ウォーターポロ	水球(すいきゅう)
ゲートボール	門球(もんきゅう)
ゴルフ	孔球(こうきゅう) 打球(だきゅう)
サッカー	蹴球(しゅうきゅう)
テーブルテニス ピンポン	卓球(たつきゅう)
テニス	庭球(ていきゅう)
ドッジボール	避球(ひきゅう)
バスケットボール	籠球(ろうきゅう)
バドミントン	羽球(うきゅう)
バレーボール	排球(はいきゅう)
ハンドボール	送球(そうきゅう)
ビリヤード	撞球(どうきゅう)
ベースボール	野球(やきゅう)
ボウリング	投球(とうきゅう) 十柱戯(じっちゅうぎ)
ボクシング	拳闘(けんとう)
ホッケー	杖球(じょうきゅう)
ラグビー	闘球(とうきゅう)

編集余録

○第63回全国学生展の審査が間もなく始まりま
す。今年は東日本大震災の影響で出品点数の大
幅減が懸念されましたが何とか2万点を超えま
した。全国の指導者の先生方有難うございまし
た。ご協力に感謝申し上げます。

○63回展の日時と会場が変わりました。7月29
日(金)から8月2日(火)まで東京都立産業
貿易センター浜松町館で開催します。(JR浜松
町駅北口から徒歩5分)授賞式は初日の29日、
展覧会場の2階で行います。例年以上に気持ち
のこもった展覧会にしたいと思います。是非多
くの方が足を運んでくださる事を願っております。

○春期昇級試験の審査会が行われました。審査
の結果、特待生に合格された方々の名前を掲載
しました。合格おめでとうございます。

○辻元大雲会長に、昇級試験の総評を書いてい
ただきました。よく読んで今後の学習の参考に
してください。皆さんのいっそうの上達を期待
しています。
(鄭街)